

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2271200228
法人名	医療法人社団 青虎会
事業所名	グループホーム ふれんど
所在地 (電話番号)	御殿場市川島田1084-1 (電話) 0550-89-5722

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成21年3月10日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	11人, 非常勤 3人, 常勤換算 11.86人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨造り 2階建ての 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(130,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,170円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	9名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	フジ虎ノ門整形外科病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大規模な病院・介護施設を持つ医療法人によって経営されているグループホームである。職員それぞれが介護に対して高い志を持ち、利用者がその人らしく生きることができるようホームの理念である「その人らしく生きられる、そして全ての人に支えられる生活空間」を基に職員は利用者への支援を行っている。また、ホーム内は広々とした居間を中心に各居室があり、利用者はゆったりと安心して生活している。今後は、全職員でアイデア・意見を出し合い、地域に認められるホームを目指すとともに、市内グループホームのネットワーク化に向けた取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である、運営に関する家族等意見の反映、職員の異動等による影響への配慮、重度化や終末期に向けた方針の共有、栄養摂取や水分補給の支援等については、全職員の意見を参考にし、利用者一人ひとりに合った改善策を見つけ取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で評価に取り組み、設問によっては答えを出せない職員もいたが、再度課題を確認・認識し、職員同士が話し合うことで評価を共有することができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、家族代表、法人内施設関係者の参加を得て意見交換が行われている。家族からの要望、他の参加者の意見に対し、速やかに対応している。今後は一般のボランティアに委員を依頼し、多方面の意見を取り入れていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームから家族への報告は、毎月「ふれんど新聞」で行事や利用者の近況を伝えている。また、定期的に家族連絡会を開催し家族の意見を聞いたり、家族の訪問時には苦情や御意見をいただいている。苦情が出た際は、施設長や担当者で話し合い、速やかに対策案を検討し、サービス改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議において地域の行事予定を確認し、行事に参加することで交流を図っている。近所のボランティアの方には、畑の野菜作りに積極的に御協力いただき、その野菜が利用者の食卓を賑わしている。また、近所の保育園児の訪問があり、利用者の気持ちを和らげている。職員は更なるサービスの向上を目指し、ホームと地域の連携強化に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく生きられる、そして全ての人に支えられる生活空間」を理念に掲げ、利用者の残存能力を活かし、自立した生活を営むことができるように支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するため、実践に向けて施設内に理念を掲示している。また、理念を毎月の「フレンド新聞」に必ず掲載している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーの協力により地域の「どんと焼き」に参加したり、区の防災訓練を見学し、地域との交流を図っている。また、地区社会福祉協議会委員の訪問を通して、交流を図っている。		地域の中では、医療法人の中の一施設とみられることが多く、グループホームに対する理解を得ることが難しいが、職員はホームの利用者と地域の人々が交流できるような事業を増やそうと取り組んでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組み、設問によっては答えが出せない職員もいたが、再度課題を確認・認識し、職員同士で話し合うことで、評価結果を共有することができた。前回評価の改善点についても、一つひとつ具体的な案を出し、更なる改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度開催している。地域包括支援センター職員、区長、民生委員、家族代表、法人内施設関係者の出席があり、意見交換を行っている。家族の要望、外部の方からの疑問や意見に対する応答は速やかに行われている。今後は、一般のボランティアに委員を依頼し、多方面の意見を取り入れていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へ入居者の状況を報告し、アドバイスをいただいたり、行政主催の研究会において、認知症ケアの活動報告発表を行うなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は毎月の「ふれんど新聞」で行事や利用者の状況を伝えている。金銭の管理も適格に行い、家族の訪問時に了承をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等について、定期的で開催されている家族連絡会や訪問時に提言していただけるよう努めている。苦情等が出た場合は管理者と担当者と話し合い、速やかに対策案を検討し、サービス改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動は最小限に抑え、利用者との馴染みの関係を大切にしている。管理者は職員の希望を取り入れながら、離職を抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にある隣接の介護施設と共同で定期的に研修会を行っている。県主催のリハビリテーション、認知症等の研修には業務の一環として参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は法人内の介護施設との交流に留まっている。職員はホームのサービス向上を目指し、他グループホームとの交流にも意欲的である。	○	地域に認められるグループホームを目指し、サービスの向上につなげるため、市グループホーム間のネットワーク化に向けた取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族から利用者の生活歴等の情報を集め、入居後は、マンツーマン対応でホームに馴染んでもらえるよう工夫している。職員は常に家族と相談し、利用者のことを理解できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	週1回は2ユニットごとの職員、利用者が協力して体操やゲーム等、レクリエーションを行っている。職員と利用者は共に家族という意識を持って接しており、日常的に食事の配膳、片付け、畑仕事等で、利用者一人ひとりが活躍できるような場面作りを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はアセスメントをもとに、利用者と話しながら利用者の思いを汲み取り、把握に努めている。音楽療法を取り入れることで、利用者には予想外の反応があり、家族からも喜ばれている。また、不穏になる利用者の実態調査をしながら、対応方法を検討し、利用者が落ち着いて過ごせる環境作りを考え、実践に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に対しケア担当制を取り入れており、火・金曜日のケアカンファレンスにおいて、ケア担当者、計画作成者、担当外職員で話し合い、利用者の要望を取り入れた介護計画を作成している。作成された介護計画書は家族に報告し、了解を得た上で、サインをいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。また、必要に応じて随時見直しを行い、利用者の日々の様子をケアカンファレンスやミーティング等で意見交換を行い、本人や家族の意向に沿った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診は付き添い支援を行っている。併設施設の音楽療法に対する利用者の反応が良かったため、音楽療法士のホームへの訪問回数を増やしたり、菜園は他施設の利用者と一緒に使用するなど、利用者の様子を見ながら柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族、利用者と十分に打ち合わせをした上で、希望に沿った医療機関への受診支援を行っている。かかりつけ医の受診は、家族が行けない場合は職員が付き添っている。また、併設施設の医師や看護師と連携し、緊急の際も対応できる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、家族や医師と話し合っているが、実際に直面していないため、具体的な方針の決定には至っていない。職員は、利用者や家族の意向に沿った支援を行っていきたいと考えている。	○	重度化や終末期の対応は、職員や家族の思いだけでは実現しないため、想定される課題の対応について、意見を出し合い、関係者間で話し合いを重ねていくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアカンファレンスやミーティングの中で、利用者の状態や心情を分析し、どのような対応が望ましいか話し合っており、職員は利用者を傷つけない言葉かけや対応ができています。また、利用者の記録は担当者がそれぞれ責任を持って、取り扱うこととしている。	○	事務所がオープンカウンターで玄関に近く、常時職員が詰めている状態ではないため、重要書類は棚に保管しているが、日常使用される書類の保管は注意が必要である。また、一部書類が煩雑に積み上げられているため、取り扱いについて配慮されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブを希望している利用者の要望に応えたり、趣味を継続できるように支援するなど、職員は利用者の要望に耳を傾け、利用者の希望が実現するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の要望を確認し、栄養士がチェックを行い、献立を決めている。また、利用者と一緒に食事作りを行い、果物を豊富に取り入れて季節感が出る等の工夫をしている。職員は利用者と一緒に同じものを食べて食事の時間を共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は決めず自由に入浴できる。利用者は、一日置きに入浴しているが、入浴を拒む利用者には無理強いをせず清拭や足浴するなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手作りカレンダー、習字、俳句等が飾られ、利用者の生活歴や要望に合った支援が行われている。利用者が大正琴を演奏すると、あわせて自然に歌声が聞こえてきたり、廊下に貼られた行事の写真を眺めて、楽しそうに思い出話をされるなど、利用者の経験や力を活かした楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑、散歩、買い物など、外出支援を行っている。ドライブも利用者の要望に沿って実施しており、毎月季節を感じられるスポットに出かけて、外食と一緒に楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、利用者は自由に入出入りしている。外に出てしまう利用者には、職員が付き添い対応を行っている。また、家族が気軽に訪問できるように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的実施し、職員も防災に対する意識は高く緊急時の対策マニュアルが整っている。地域の自主防災訓練にも参加している。	○	防災訓練には近隣住民へ参加を依頼し、災害時には近隣住民の協力が得られるような取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は定期的に栄養士のチェックを受けて作成している。職員は水分摂取の必要性を理解し、食事の合間にもお茶を楽しめるよう工夫している。また、食事に時間のかかる利用者にも丁寧に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレ等の掃除が行き届いている。室内は窓も多いので明るく、広い廊下や共有スペースはゆったり感が感じられる。ソファやカーテンも居心地良く過ごせるよう工夫し設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台や収納スペースがあり機能的である。明るく清潔感があり、洋室・和室どちらにも対応できる居室となっている。利用者の希望に沿って、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。		